

## 令和8年2月定例教育委員会会議録

令和8年塩尻市教育委員会2月定例教育委員会が、令和8年2月19日、午後1時30分、塩尻総合文化センター2階大会議室に招集された。

### 会 議 日 程

#### 1 開 会

#### 2 前回会議録の承認

#### 3 教育長報告

- 報告第1号 主な行事等報告について  
報告第2号 3月の行事予定等について  
報告第3号 後援・共催について  
報告第4号 市議会2月臨時会報告

#### 4 その他

- その他第1号 令和7年度教育委員会関係補正予算（案）について〈期間限定非公開〉  
その他第2号 令和8年度教育委員会関係予算（案）概要〈期間限定非公開〉

#### 5 閉 会

#### ○ 出席委員

教育長	佐 倉	俊	教育長職務代理者	碓 井 邦 雄
委員	甕	剛	委員	八 島 思 保
委員	小 松 裕 美			

#### ○ 説明のため出席した者

こども教育部長	百 瀬 一 典	交流文化部長	上 條 史 生
こども教育部次長 (こども未来課長)	竹 中 康 成	交流文化部次長 (社会教育スポーツ課長)	上 村 英 文
学校教育課長	上 條 崇	平出博物館主査	石 井 健 郎
教育施設課長	五 味 克 敏	市民交流センター 長(図書館長)	矢 澤 昭 義
保育課長	塩 原 清 彦	文化財課長	古 畑 比 出 夫
国民スポーツ大会 推進室長	長 島 峰 行	主任学校教育指導 員	小 林 順 一

#### ○ 事務局出席者

教育企画係長	浅 川 忠 幸
--------	---------

## 1 開会

**佐倉教育長** 皆さん、こんにちは。ここ連日、夜遅く、また早朝からのミラノ・コルティナオリンピックのテレビ観戦で睡眠不足の日が続いているのではないかと思います。いかがでしょうか。アスリートの皆さんがこの一瞬にすべてをかける姿とか、また、競技直後のインタビューの一言一言に、本当に多くの感動や学びをいただいているなと思っています。恐らく子どもたちも、そういった選手の皆さんの姿に憧れを抱き、夢や希望、また目標を持っているのではないかと思います。

先週の金曜日ですが、ミラノ・コルティナパラリンピックのパラアイスホッケーに出場します塩谷吉寛選手の壮行会が行われました。母校である桔梗小学校、広陵中学校、都市大塩尻高校の児童生徒から寄せ書きが書かれた国旗が送られました。3月7日には予選が始まります。塩谷選手の健闘を祈り、皆で応援をしたいなと思っています。

それでは、ただいまから2月の定例教育委員会を開会いたします。よろしくお願いいたします。

## 2 前回会議録の承認

**佐倉教育長** 次第に従いまして2番、前回会議録の承認について、事務局からお願いいたします。

**浅川教育企画係長** 前回、1月定例教育委員会の会議録につきましては、既に御確認をいただいております。本会議終了後に御署名をいただきますので、よろしくお願いいたします。以上です。

**佐倉教育長** よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

**佐倉教育長** それでは、そのようにお願いいたします。

## 3 教育長報告

**佐倉教育長** 3番、教育長報告に入ります。私からは2点報告をさせていただきたいと思えます。

1点目ですが、新聞報道にもありましたが、2月10日に市内出身の落語家、柳亭市遼さんが二ツ目に昇進するという事で、市長表敬訪問が行われました。市遼さんですが、洗馬小学校、塩尻西部中学校出身の方で、高校・大学に進学し卒業後、柳亭市馬師匠に入門をしまして、見習い、前座を約6年半務めて、この5月に二ツ目に昇進するという事になったそうです。落語の世界では、私も今回初めて知ったのですが、師匠のもとで見習い、前座を務めて、その後二ツ目になってやっと独り立ちということのようです。その後、よく御存知の真打というところに行くわけですが、その真打になるまでに、一般的には二ツ目の期間が10年はかかると言われてるので、なかなか厳しい世界に入られたという方です。

市遼さんが落語の道を志すきっかけについてお聞きしたのですが、高校時代に図書館で借りてきた古今亭志ん朝師匠のCDを聞いたということだそうです。そこで興味を持って、その後、大学進学のために上京して、好きな落語を聞くために頻繁に寄席に通ったようです。そして、その好きな落語を聞いているうちに、だんだんと自分もやりたいと、自分の好きなものに触れていられるには落語家になるのがいいのではないかとというふうに大学4年生の

ときに判断をされて、市馬師匠に弟子入りを願い出たということだそうです。

弟子入りした当時は、ちょうど間もなくしてコロナ禍になってしまって、いわゆる先ほど言った見習いから前座になるまで、本当はもっと早く前座になるようなのですが、2年を要したそうです。なかなかコロナ禍で通常どおり行かなかったということのようです。師匠の自宅に通って家事をこなしながら稽古をつけてもらうということが半年、1年、2年とたつていく中で、本当に自分は一体何をやっているのだろうと思ったようなこともあったそうです。

そんな経験をした市遼さんですが、二ツ目昇進に当たり抱負を語っている言葉が本当に印象に残ったのですが、師匠みたいに真っすぐ落語をやって、ちゃんと受ける落語家になりたい。古典落語を中心にやられている師匠らしいのですが、古典の面白さを損なわず、今のお客様にどう喜んでもらえるか追求したいと、そういった真っすぐな気持ちを語られていました。

私はこの市遼さんの姿を見て、本当に好きというのはその人を動かすすごい原動力だなということを感じたのと、小中学生にも、ぜひ可能な限り様々なことを知ったりとか経験したりする中から、できればまず自分が好きとか、やってみたいというものを見つけてほしいなということを感じました。子どもたち、小中学生ですが、好きとかやりたいというものが見つかれば、それを追求していく中で、市遼さんのように尊敬できる師匠と出会ったりとか、自分の生き方が見つかっていくのではないかなと、そんなことを感じました。

ですので、その当日に私、市遼さんに、いつの日か市内の子どもたちに落語と共にその生き方を伝えてほしいというお願いをしたところでもあります。今年の8月30日ですが、レザンホールで市遼さんの出演する落語公演会が予定されているということをお聞きしましたので、ぜひよろしければ、皆さんお聞きに行ってくださいと思います。それが1点目です。

2点目です。これは委員の皆様にも御参加いただきましたが、1月31日に第1回の塩尻市みらい探究アワードの発表会を開催しました。今回初めて開催しましたみらい探究アワードですが、私が一番よかったと思っているのは、中学生、高校生、大学生、社会人の方が一堂に会してお互いの学びのよさを知ったりとか、刺激を受けて、次に向けての意欲を高める機会になったことがよかったなと思っているところです。

中学生や高校生は、お互いの探究の成果や生き方を学ぶということとともに、貴重だったと思うのは、大学生の方から、例えば、大学は出会いと探究のテーマパークであるというような言葉をもらったりとか、社会人の方から、楽しそう、やってみたいを意識する、どうせやるなら楽しくというメッセージをいただいたりしたということが、これからの進路やキャリア、また生き方を考える大事な機会になったのではないかなと思っています。

中高生が大学生や社会人から学ぶ機会をできるだけ設けるように、今、市内でも動いているところですが、なかなかこういった機会は設けられないなということを思っていますので、この点を意識しながら、先生や自分の親ではない、また、より年の近い大学生や社会人から話を聞くという、そういったところも意識しながら、このみらい探究アワードの場を今後も大事に育てていきたいなと思ったところでもあります。私からは以上です。

それでは、委員の皆さんから、それぞれの参加されました行事、また事業などについて、お気づきの点がありましたら御発言をいただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

**碓井教育長職務代理者** お願いします。今、教育長から2つ目にお話がありました、塩尻市みらい探究アワード発表会についてですが、私も参加させていただいて、少々長丁場の発表会でありましたけれども、会場も都市大塩尻高校でしたし、中身の濃い、教育長の言われたようによい発表会だったかなというふうに感じました。

私は、特に後半、特別講演をしていただいた都市大の五十嵐先生の「科学とキャリア」という演題の御講演が心に残りました。先生は講演の進行にパワーポイントを使っておられましたけれども、実験、実技をはじめとしたパフォーマンスが豊かで、クイズがあったり、会場から実験の参加者を募ったりするなどして会場も巻き込んで行う講演で、時間があっという間に過ぎました。自分たちが取り組んできたことを発表する場で、参加者によりよく伝えていくには、こういう要素を取り入れていくということも大事だなということをお自身学ばせていただきました。今回発表された皆さんも、先生の御講演から刺激を受けたのではないかなというふうに思います。

また、先生の御講演の中で、職業的な面について、ご自身のご経験を交えながら、自分の仕事となるには、自分がやりたいこと、自分ができるとともに、社会に求められることという3つの視点が大事だというお話があったかと思えますけれども、そのことが私は非常に印象に残りました。ぜひこんな点も、先ほど教育長からもありましたけれども、小中学生にも知ってもらえると、今後の参考になるのではないかなということを感じました。

それでは、私から2点お願いしたいと思います。1点目は、市町村教委連絡協議会の報告であります。昨日2月18日に、長野市で市町村教委連絡協議会代議員会が行われましたので、その報告を少しさせていただきます。まず県教委から、電子図書館デジとしょ信州の第2期に向けてと、学校が性暴力を把握したときの初動対応についての連絡がありました。デジとしょ信州については、現状や第2期の重要な取組の説明のほかに、学校でもっと使ってほしいと、そういう旨のお話もありました。

それから、学校が性暴力を把握したときの初動対応については、長野地検の次席検事から教職員の皆様をお願いしたいことと、その趣旨に関する説明がありました。このことについて研修等を希望する場合は、県教委の心の支援課に相談してほしいとのことでした。

後半の協議会では、来年度の計画を中心に協議されましたが、塩尻市の関係では、10月23日に上田市で行われる市町村教委研修総会の分散会において、実践発表することが正式に決まりました。本市の実践発表のテーマ等は未定であります。委員の皆様にはよろしくお願ひしたいと思ひます。また、事務局におかれましても、御指導、御支援をよろしくお願ひいたします。

2点目は、リーディングDX事業についてお願いします。1月30日に塩尻西部中で行われたリーディングDXスクール事業の最終の報告会に参加させていただきましたので、少しそのときの様子や感じたこと等を報告させていただきます。

当日は全学級で公開授業が行われましたので、私は1年生の社会科を参観させていただきました。その授業は、南アメリカについてのところで、現地で取り組んでいる経済発展や豊かな暮らしの実現と、自然環境を守るという持続可能な開発を考える授業でありました。授業の進め方は、4人グループで、タブレットで個人追求したり、タブレット内で他の人の考えをつかんだりしながら自分の考えをまとめて、また、言葉でも意見交換のある授業でありました。

授業後行われた最終報告会は、指定校の4人の研究主任の先生方がパネルディスカッションのような形で意見交換をしながら進める、そんな形式でありました。研究主任の先生方からは、クラウド使用による時間外勤務時間の縮減についてや、家庭訪問、保護者懇談会、来入児健診等での有効活用事例が報告されました。また、この研究に取り組んだ1年間は、負担という感じではないが、大変さはあったと。しかし充実した1年だったとか、有効なデータを中学校へつなぎたいと、そういう前向きな発言も聞かれました。また、研究を支えた市教委の担当主事への感謝の言葉もありました。

私が個人的にお話しした校長先生からは、最近の新聞報道にも同様の記事が出ていましたけれども、時間外勤務時間の縮減、時短的な面で大変効果があるということをお聞きしました。

講演会では、講師の東原先生から、これからの時代に必要とされる学びの姿を中心にお話がありましたが、この取組はそういう学びを追求する中で、授業づくりや効果的なICT機器の使い方を考え続けた、また、小中連携や他校との連携を含めて取り組み続けた有意義な1年間だったのではないかと、参加させていただいて感じ取ることができました。

私の感じを申し上げたわけですがけれども、私も1年間、この事業の公開授業には全て参加して、GIGAスクール関係の様々な点を学ばせていただきましたが、今後は授業づくりをはじめ、子どもたちのよりよい成長に向けて、この取組をどう生かしていくことがよいかを考え続けて、実践化を図っていくことが大事ではないかというふうに思いました。この取組に続く次年度以降への見通し、チャレンジもあるように聞いておりますので、御期待申し上げたいと思います。私からは以上です。

**佐倉教育長** ありがとうございます。続いて、いかがでしょうか。

**八島委員** 私からも、先ほど教育長と確井職務代理からの報告にもありましたが、みらい探究アワード発表会に参加させていただいた感想を述べさせていただきます。世代を超えた探究成果の報告と競い合いがあり、またリアルタイムでフィードバックをされた形式は新しい取組であり、興味を持ってました。

運営側への感想としましては、精神科学の観点からですが、あくまでも画一的な基準ではありますが、多世代の融合から得る気づきや刺激といった視点は、大変興味深く拝聴しておりましたが、発達段階の心理、社会的課題の側面を考えると、発表は2部制でもよかったのではないかなと、個人的には感じました。

中学生が友達と協力をして一つの目標を達成する。そうした経験は自信の土台にもなり、挑戦意欲や粘り強さにもつながります。そして社会にも自信を持って向き合おうと思う意欲や意識が高まっていくと感じます。

高校生も含めた段階では、思春期は自己理解が深まる一方で、不安や葛藤を抱くようになります。多様な経験や選択、探究をしていくことで、自己と他者に誠実であろうと役割意識が高まっていきます。信頼して見守っている社会の代表として、今回、市長と教育長、そしてその他専門の団体の代表の方々より、フィードバックをいただいたことも生徒たちの自己高揚感につながったと思っています。

しかしながら、大学生以上、そして社会人の発達段階となりますと、またそこは別です。社会的な自立や人生に対する意義や充実感を得ることが、大学生や社会人の発達段階ではないでしょうか。人生を豊かに感じ、周囲を支えていく姿勢を養っていく時期となります。中

高校生と大学生や社会人をひとくくりとし、探究発表とアワードするといった企画は、少々違和感があったなと感じたことが、正直な私の感想です。

学童期と青年期は自信の土台と自己理解の形成です。成人期と壮年期は社会的な自立と他者を積極的に支える姿勢の修得であります。それぞれの発達段階で、成長の過程において自然と求めていく心理・発達課題は異なります。中学生と大学生や社会人では、やはり探究の目的や内容を共感し合うことは難しいのではないのでしょうか。大学生や社会人の探究発表が子どもたちを支える側の探究内容であったならば、別ではありますが…企業プレゼンされても、みらいアワードの趣旨が不透明だなと感じました。

また、発表は8者でありましたが、これも一説ではありますが、脳科学者のシーナ・アイエンガー博士の著書、『選択の科学』によると、人は最大7つまでしか選択ができない。7つが完全体であり、それ以上のものを選択肢に与えられてしまうと取りこぼしてしまったといった感覚に脳が陥ってしまい、満足度がかなり下がってしまうと述べられています。やはり、ひとくくりで8者の発表は、始めの発表がどのような内容であったのか、記憶が曖昧になりがちであるのかなと感じました。

発表者は二分して、なおかつ7者以下にしていく企画の方が、より視聴者として満足度が高く感じたのではないかと思います。運営側もまた探究してみてください。以上です。

**佐倉教育長** ありがとうございます。

**小松委員** 私からは、報告を2点させていただきます。ここ1か月は、子どもたちの展示や発表に触れる機会がたくさんありました。1月20日から2月2日まで、えんぱーくで開催されていたしおじりエコ展での環境への取組や活動の展示、1月31日の塩尻市みらい探究アワードでの中高生、大学生の発表、2月14日に行われたコミュニティ・スクールでの公民館と小学校の実践発表の参観、また2月は小中学校での授業参観もありました。

これらの参観から感じたことは、やってみたいと思ったことをするときの子どもたちの集中力や行動力はすごいという点と、うまく地域と関わりながら学んでいて、学校と地域両方にプラスに作用していて素晴らしいなという点です。こういったまとめの発表を参観すると、今年度も残り少なくなってきたと実感しますし、子どもたちには、この1年で培った力を次の学年でもさらに伸ばして行ってほしいと思います。

2点目です。2月5日に総合文化センターのロビーで塩尻東小学校3年1部が考案した水芭蕉だんごが販売され、保護者ボランティアとして販売のお手伝いをしました。教育長や甕委員、事務局の方々には、準備から販売までの様子を見ていただいたり、だんごを購入していただいたりしまして、どうもありがとうございました。

3年生になると、社会科で自分たちの住む地域の学習が始まります。その1つとして、新学期が始まってすぐに、みどり湖への社会科探検がありました。水芭蕉の群生を見て、色や形、香りなどを体感した子どもたちは、その水芭蕉公園での思い出から、今年度の総合学習を「伝説の水芭蕉大作戦」と名づけ、活動を始めました。みどり湖水芭蕉の会代表の平出さんに電話をかけ、一緒に水芭蕉を育てる活動をしていただけることになり、6月末には再びみどり湖を訪れ、種を採る作業を行いました。

この種を採取する作業のときも、私は保護者として参加していきまして、子どもたちが暑い中、大きくなった葉をかき分けて棒状の種の部分、成長してゴーヤほどのサイズに育っていたのですけれども、それを、一人一人鎌を使ってもぎ取りました。この種は、水に浸し続け

ることで芽が出てくると教えてもらった子どもたちは、話し合っただけで夏休み中の種当番というのを決めて、水を交換する作業を交代で行いました。猛暑で水温が上がってしまい、芽出しには失敗してしまうものの、平出さんから種を分けてもらい、秋にはその種をポットに植え、毎日水やりを続けています。冬に一旦枯れて、春に芽を出すそうです。

ほかにも水芭蕉のことを調べてクイズをつくったり、いろいろな水芭蕉のグッズやポスターを制作したりと活動を広げる中、水芭蕉だんごを作りたいと子どもたちから声が上がって、材料や作り方などを自分たちで調べて、12月に作ることができました。そこからさらに水芭蕉の魅力を多くの人に知ってもらうために、水芭蕉だんごを販売したいというふうを考えまして、いろはさんに交渉したところ、熱意が伝わって水芭蕉だんごを作っていただけることになりました。

当日はたくさんの人に来ていただいて、500個用意しただんごが13分で完売しました。私は、会計の横でお釣りの計算が合っているか見守っていました。1個250円のだんごをお客さんが何個購入するか分からない状況でどうするのか見えていますと、金額の一覧表がつくってあり、手元に置いてすぐに幾らか分かるように準備されていました。1万円札や1,050円を渡されたときに少し戸惑う様子もありましたが、金額を間違えることなくお釣りを渡すことができました。

販売だけでなく宣伝や飾りつけ、陳列、説明など、それぞれの係が自分の仕事を頑張っていて、お客さんも子どもたちの様子を優しく見守ってくれているなど感じました。一つの目標に向かって取り組む姿は素晴らしかったですし、多くの学びと気づきを得ることができて貴重な体験になったと思います。

今回、水芭蕉の会の皆さんやいろはの皆さん、公民館や教育委員会の事務局の皆様にご子どもたちの活動を支えていただいたことを心より感謝いたします。3年1部の水芭蕉を広めたいという思いは伝わったのでしょうか。報告は以上です。

**佐倉教育長** ありがとうございます。

**壺委員** 今、受験シーズンになってきてまして、中学校3年生の子を持つ親御さんは本当に大変だろうなと思っています。

私はコミュニティ・スクールの公民館フェスタについて感想、報告したいと思います。まず北小野地区の林主事の発表の中で、北小野産のお米を作るという取組の発表がありました。あのお米、セクシー米という名前をつけたのですよ。皆さん、知っていますか。私は20キロぐらい買っているのですが、何でセクシー米かというのは、小学生とか中学生の前で言うのはあまりよくないのかなと思ったのだけれど、お米を炊いたときにつやつやと光り輝く、一粒一粒が立っている様子を色っぽいという表現を使ってセクシー米というふうにしたらしいです。

当日その説明はなかったのですが、その地域を盛り上げるときに、何か特別なネーミングとかつけてあげると、地域の人たち、一瞬えって思うのだけれど、結構面白い取組だなと思っています。そういったところからもお米作りなどに興味を持ってくれる子どもたちが増えてくれるといいなと思っています。このセクシー米は地元の青年部の人たちが、今年度初めて作ったとお聞きしましたが、そういった取組は農業の担い手不足という面でもありがたいなと思って聞いていました。

次に、桔梗小学校のめだか池復活大作戦の話なのですが、これは本当に地域と学校が連携

した環境再生プロジェクトとしては大変すばらしい事例というか、発表だったなと思っています。特に庭などでも池でもそうですけれど、死んでしまったものに生命を与えるというか、命を与えるということが、とても大事な授業なのではないかなと思っています。また子どもだけではどうしてもできない部分を、PTAや地域の方が進んで協力して参加して下さったということに本当に感謝するとともに、他の地区でもそういったことが広がればいいなと思いました。めだか池復活大作戦、これは本当に大切な命の授業ではなかったかなと感じました。

次に、片丘小学校ですが、「つながろうかたおか」という題名で発表があったのですが、私も片丘小出身としては大変興味深く見させていただきました。発表の中で、生のトウモロコシを食べたという発表がありましたけれど、私も実は小学校のときに食べたことがあって、それが最初で最後だったのですが、本当においしかったなという記憶があります。そういったつながりを今でも続けてくれている地域の方々、それから先生の皆さんに本当にありがたいなと思いました。

楽しいでつながるというテーマで発表していたのですが、私はこの楽しいという言葉をもいつも心がけていまして、『ハイキュー!!』という漫画を知っていますか。その木兎光太郎というキャラクターが、楽(らく)ではなく楽しいを考えるというバレーをしているのです。何かそういう意味合いもあるのではないかなと思って、苦しいこととかたくさんあるのですが、楽しんで何か過ごすのではなく、楽しいを考えながら生活をしていくというのが、地域を中心に子どもたちに浸透しているのではないかなと思いながら発表を見させていただいて、私も母校の後輩たちというのですか、しっかりと発表している姿に本当に心が温かくなりましたし、この子どもたちが次世代にまたつなげて行ってほしいなと思いました。

また、その実践で八島さんがやっているダスクの子たちが小学生と高校生をつなげる役目なのかな、ああいったことが本当に大事だなと思ったので、ダスクに関しては今後も続けて行ってほしいなという気持ちもありますし、子どもたちが率先して、そういった取組に進んで行ってほしいなという思いを改めて感じました。片丘の公民館長だったかな、すごくありがたがっていましたが、本当にああいう姿が印象に残りました。

今、小松委員からの発表がありましたけれども、水芭蕉だんごに関しては、本当にこれも地域を絡めての大変すばらしい取組だなと思っていますし、塩尻市全体を通してコミュニティ・スクールや公民館を中心とした学習ですか、そういったことがもっと盛んになればいいなと思いました。

ちなみに東小学校のホームページを見ますと、つい最近、たんぽぽ学級の子たちが少し降った雪でそり遊びをしました。板で作った自作のスキーを試しに滑ってみましたが、靴の部分の補強がなかなか難しいようでした。ということで、自分たちでスキーの板を作って、靴を履いて滑っているという、そういったホームページ内での報告があったのですが、東小学校は今年になってからものすごくホームページで活動内容を発表されています。ですので、こういった発信は地域に必ずつながると思っているので、ほとんどアップしていない学校もありますけれど、何かその辺、先生方も考えていただいて、地域に学校でやっていることとか、一緒にやっていることとかをホームページに載せていただきたいなと思いました。

最後に、つい先日、西小学校のコミュニティ・スクールの協議会があったのですが、そこで私が出した要望の一つに、近年の生成AIについて、メリットもたくさんありますが、

問題等もたくさん出てきています。と、私たち経営者会でもよく勉強会をやるのですけれども、常に何か更新するような情報だらけで追いついていけないのが正直なところですよ。子どもたちを取り巻く環境というのは、大人の目につかないところもたくさん出てくるので、保護者に対しての生成AIのセミナーとか講習会をぜひ教育委員主導で、各学校で取り組めるようになればいいかなと思っています。親御さんたちも分からないところが結構あるという話が出てきましたので、年に2、3回で構わないですので、基本的なことから今起こっている問題などを、皆さんと勉強会を開いて周知するという事は大事ではないかなという話をさせていただきました。以上です。

**佐倉教育長** ありがとうございます。今の点で、何か事務局から特によろしいですか。要望という形でお願いします。

では、そのほか委員の皆さんからあったらお願いします。

**碓井教育長職務代理者** みらい探究アワード発表会について、質問なのですけれども、私はこのことについて、本年行うということを知りませんでしたので、狙いだとか願い、それから行うことになった経緯等を含めて、その辺を確認させていただきたいと思います。それと、今年第1回ですので、継続するというふうに思うのですけれども、今回の評価を含めて、その辺のところも教えていただければと思います。

**上條学校教育課長** 探究アワードにつきましては、開催の大きな目的としまして、第二次教育振興基本計画において、探究で学んだ学習を発表する場の提供をしていくという項目がございます。そういったところで、市教委としましても子どもたちに発表の機会を持たせたいということが大前提にあり、今回開催したものであります。

今、各委員からもお話をいただきましたが、中学生等がほかの世代の方々と交流することにより、自分たちの将来がある程度見える化され、目標が見えてくるのではないかと考えております。学校での学びは、どうしても同年代の中で完結しがちですが、異なる世代の方々と意見交換を行うことで、特に中学生には学んでもらいたいとのことから、他世代の皆さんとの一つの交流の場を開いた形となっております。

来年度以降についても、基本的には継続していきたいと考えております。なお、本年度はレザンホールの大規模改修が予定されていたため、当初から会場確保のため動いていましたが、そのような中で都市大塩尻高校と交流する機会があり、会場をお借りして開催することになったという経過がありますが、来年度以降につきましては、基本的には市の施設で実施したいと考えております。

**碓井教育長職務代理者** 願いや経緯等はよく分かったのですけれども、狙いは、その学習の場の提供というのが狙いというふうに理解していいわけですか。

それともう1つ、他の世代と交流することを大事にしてやっているというお話もあったのですが、あの場では8組ということで、限られた人の中での交流というような形ですけれども、それをどのように広めていくのか、そういう手だてをお考えなのか、その辺も含めて教えていただければというふうに思います。

**上條学校教育課長** 多世代と申しあげましたけれども、具体的には、今年度行ったような中学生、高校生、そして社会人といった、それぞれの世代が取り組んでいる探究やキャリアに関する発表を今回行いました。その中で、中学生には将来、自分たちが大きくなったときに、このような考え方があるんだということを学んでいただきたい。一方で、高校生や社会人に

とつても、中学生の発表を通じて、成長の過程での思いがけない発見や気づきが出てくることも期待されます。このように相互に学び合うことの中で、今回の社会人まで含めた一体型の探究アワードを開催したものです。

また、探究学習は、子どもたちが自分の興味・関心に基づいて学ぶことで、学びの喜びや自己肯定感を高めることにつながってきます。特にキャリア教育で学んでいる中では、地域や社会の課題がテーマになってきます。今回もそのようなテーマが多く、こうした課題に向き合うことで、子どもたちが自分の将来、社会での役割を考えるきっかけとなることを期待し、実施しているところです。

**碓井教育長職務代理者** 世代の交流という狙いは分かるのですが、あの場に来る方というのは割合限られている、そういう状況に見られたのですが、その辺をどう広めていこうとされているのか、そんな点もありましたら教えていただきたいなと思います。

**上條学校教育課長** 発表の機会については、時間の制約もあり、どうしても7組、8組ぐらいが限界となりました。そのため、今回、枠の設定をする中で、中学生3組、高校生3組、社会人2組という形としました。発表時間等を踏まえると、どうしてもこの程度の枠が現実的であり、あまり長時間になり過ぎると運営が難しくなると考えました。

今後、参加の幅を広げていく中では、例えば、その枠の配分を見直すことや、先ほどご意見もありましたけれども、例えば2部制にするなどの方法も検討の余地があると考えます。どうしても限られた発表枠の中で、どこまで対象の幅を拡大できるのか、今後の課題として検討していきたいと考えております。なお今年度については、そのような枠配分の中で実施したため、どうしても対象が一定程度限られた形での開催となったものです。

**碓井教育長職務代理者** 私が申し上げたいのは、発表する場に出てくる枠を広げろとか、そういうことではなくて、あのような取組をどのように広げていくのかという点です。それを他に広げていくことが私は大事でないかなというふうに思うわけで、その辺のところ、私も考えたいと思いますけれども、私の願いはそんな点にあるということを知っていただければということで結構です。終わらせていただきます。

**佐倉教育長** 今回の件に関わって、私もまだ全然事務局と話をしていないのですが、経緯ということから一つ御説明しておきますと、枠があった中で、全中学校とか市内の高校に話をし、その中から応募があった生徒たちが出てきています。社会人は、こちらからお願いしているところもあるのですが、そういった経緯がございます。

どうやって広げていくかということについては、自分も考えなければならぬと思っただけで、実は、探究アワードの数日前に、レザンホールで志学館高校の総合学科の発表会がありました。私、そこに行かせていただいたのですが、先ほど八島委員からあったのですが、発達段階が違うのですが、高校生の学んだ成果というものをぜひ、小学生では難しいかもしれないのですが、できれば中学生には見せたいなという思いがしまして、そのときに志学館高校の先生に、そういうことは考えられないかという話を投げかけました。

市内の中学生がここへ全員集まるということにはできないにしても、例えばオンラインなりでつないで各中学校から見るということもできると思います。ふだんの文化祭等でも、高校生の学びを中学生が見ているかと思うのですが、探究ということをやっている中で、高校生はそのまま生き方、キャリアにつながっている発表がいっぱいあったので、こういった探究をやっていくということのよさを中学生にも感じてほしいと思いました。また来年すぐでき

るか分かりませんが、広めていくということで、探っていかなければということをおもっています。

あと、今回のこの発表会のもとになっている経緯は、キャリア教育のことを検討している中から出てきています。ですので、例えば丘中学校でやっていただいているような「いきはたトーク」みたいなのも、社会人等の方と中学生が直接話をしているというところがあるので、そんな方向からも広げていくことはできるかと思えます。いろいろな方に協力いただいて、学校のほうへ直接、大学生や社会人の方に入っていただくことも考えていきたいと思っています。

どちらにしても、御指摘いただいたように、市内の中にそういうところをうまく広げていく方法については検討してみたいと思っています。お願いします。

**八島委員** 学びの発表は大事だと思います。社会人や大学生との交流も大事だと思います。ですが、今回のキャリア教育を趣旨とした企画では、大学生と社会人が企業プレゼンと感じさせられるような探究発表では、中学年生には難易度が高いと思います。さすがに交流といった内容にはとても見受けられませんでした。またキャリア教育としても、中学生にプレゼン内容の理解ができ、わくわく度が高まったとは、答弁された思惑通りの想像は私にはできませんでした。企画の趣旨が幅広く過ぎ、また目的が不明瞭であり、不明確と感じました。発表会の冒頭には、教育委員会からの講演もあり、続いて探究発表があり、さらに特別講演がありました。タイムスケジュールとしても、詰め込み過ぎであると感じます。熱意は感じ取れますが、何を主に中学生、高校生に学ばせていきたいのか。広がり過ぎて落としどころが見えづかったです。目的意識をしっかり持って、プログラムを組んでほしいなと思いました。次回に期待いたします。

**佐倉教育長** ありがとうございます。そのほか、いかがですか。

**壺委員** 今日午前中、初めて献血に行ってきました。つながろう片丘実行委員会が発行したチラシに、「片丘小学校5・6年生の児童が授業で献血の重要性や社会貢献についての学習し、献血の様子を実際に見て、学ぶこの機会に皆様に献血へ御協力いただき、ご家族・ご友人、そして職場の方などへのお声かけをよろしくお願いします！」という文章があったので、児童が見に来るならと思って申し込みしたのです。

この授業の内容ですけれども、その話を少し定例会の前に委員の皆さんと話していたのですが、八島委員の見解をもらいたいなと思って、手を挙げました。

**八島委員** 血液関係は、小学生の幼い子どもたちには、衝撃的であると思います。普段、採血や予防接種ワクチンを接種するにしても、血管迷走神経反射で失神してしまうようなお子さんもいらっしゃる。子どもたちのみならず、年々増加傾向にあると医療現場では感じます。ダイレクトに血液採取や穿刺の現場の見学させたのではないとしても、少し刺激が強過ぎるのではないかと感じます。先ほどチラシを拝見させていただきましたが、主催者がどのような趣旨で、子どもたちへの影響をどれほど考え計画されたのか、疑問に思います。斬新なアイデアで、重要な社会貢献活動であるかもしれませんが、逆効果を生み出すデメリットもしっかりフォローできる環境を整えた上で、啓発活動を行ってほしいと思います。慎重に進めてもよかった案件なのかなと感じました。

**壺委員** 確かにもう少し慎重に進めた方がよかったのではないかなという部分が八島委員から言われて思いました。

私は本当に子どもたちのためにと行ったのだけれど、安易に行き過ぎたかなと感じた部分もあって、問題提起ということで受け止めてもらえればいいかと思います。

**八島委員** がん教育でもお伝えしましたが、事前に何回もレクチャーしながら、がんという言葉に対して、どのような心理的なショックを受ける可能性があるのか、きめ細やかな配慮の上で実施されているのです。事前から血液や穿刺の恐怖に対して、学習や心理的配慮の段取りを取りながら計画的に実行されたのであるならばよいのですが、今回、どのような経緯で、こういった順序で実施されたのか、不透明であるため、衝撃的な内容でした。

**齋委員** ありがとうございます。

**佐倉教育長** ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。よろしいですか。ありがとうございます。

### ○報告第1号 主な行事等報告について

**佐倉教育長** それでは、報告第1号のほうに移ります。報告第1号、主な行事等報告についてお願いいたします。資料は1ページから5ページになります。それでは、事務局より主要な行事について、説明をお願いいたします。

**矢澤市民交流センター長（図書館長）** それでは、私からは、市民交流センターと図書館の行事報告をまとめてさせていただきます。

まず、1ページ目、上段を御覧ください。1月16日、大人司書講座1回目ということで、10名の方に参加していただきました。大人向けに図書館司書の仕事を体験してもらう、全2回の講座を開催しました。第1回の今回につきましては、「本が棚に並ぶまで」をテーマに、本の分類・排架についてや装備を体験していただきました。ふだんから図書館を利用している人だけでなく、新規の利用につながった方もいらっしゃいました。次年度に開催する際には、サポーター登録のほうにもつなげていけるようにしていきたいと考えてございます。

2ページを御覧ください。1月17日土曜日、みんなのがん教室@図書館ということで、今年度第5回目「自分ががんになったら」ということで、20名の参加をいただきました。がん経験者の吉澤せい子さんとがんサポートおむすびの小口浩美さんに対談形式でお話をさせていただきました。会場の様子を見て参加をしてくださった方や、ほかの参加者から聞いて参加してくださった方もいらっしゃいまして、感想では、がんについての本を読みたいという声もあり、図書館で行っている価値を出すことができたと考えております。

次が、1月18日日曜日、しおり部ということで、高校・大学生の図書館の部活動として行っていて、8月の選書ツアーで選んだ本の検収、排架処理を行いました。また、前回に引き続き、本のPOP作りをして、図書館の2階にて開催中のテーマブック스에展示をいたしました。本を図書館で受け入れる過程と、テーマブックスの作成を体験してもらうことができました。実際の展示風景や、前回POPを手がけた本が借りられているところをメンバーに見てもらい、前回行ってもらった作業の成果を示すことができました。

一番下の段、1月20日、ロマン大学「図書館見学」ということで、31名の参加をいただきました。ロマン大学のカリキュラムの一つに、図書館見学を入れていただいております。前半は座学で、図書館の取組の紹介、後半は、館内見学と古田晁記念館にまつわる貴重書の紹介を行いました。図書館では本の貸し借りだけでなく、雑誌や視聴覚資料、電子図書なども利用いただけることや、講座、展示、DVD鑑賞会など、企画を多数行っていることなど、

様々な側面をお伝えすることができました。特に貴重書の紹介は好評をいただきました。古田晁記念館についても知っていただく機会となりました。

続きまして、3ページ目を御覧ください。1月25日、こども絵画造形教室エカキッズということで、今年度3回目「石でいきものをつくろう！あにまるストーンアート」ということで、17組46名の参加をいただきました。絵画や造形で子どもの情緒を育む美術工作教室で、今年10年目を迎えております。塩尻美術会の会長、小松正弘さんを講師としてお迎えしまして開催をいたしました。今回は、自然にある様々な形の石に、アクリル絵の具等を使って生き物を描いたり、石を重ねたり、画用紙や爪ようじなどを使い、石で立体的な生き物を作るストーンアートを制作いたしました。参加者には想像力を豊かに、楽しんでいただけるイベントとなりました。

下の段、1月29日木曜日ですけれども、ビジネス情報相談会ミニセミナーということで、「補助金申請にも使える事業計画書の書き方」ということで開催をしまして、3名の方に参加していただいております。長野県よろず支援拠点と連携をしまして、相談会を毎月3回行い、そのうち1回のミニセミナーがこの29日になっております。会場とオンラインでの参加の方がいらっしゃいまして、ミニセミナーの参加者数としては、SNSなどのセミナーに比べると、申込みは少なかったですけれども、個別の相談会に申込みをしてくださる方もいらっしゃいました。

1ページ飛びまして、5ページをご覧ください。2月1日、みんなで学べる、つながる！子育ておしゃべり子育て時間「えんたいむ」ということで、4名の方が参加していただきました。年齢を狭めまして小学校1年生から3年生ということで、悩みが共通でお話が弾みそうところで保護者の方を対象としまして、交流会をメインとしたイベントを開催いたしました。子どもの心の発達や親の関わり方について考えることを目的として行っておりまして、臨床心理士を講師に迎えまして、参加者同士の交流やグループワークを中心とした構成として、子育てに関する悩みや思いを安心して共有できる場を設けました。講師からの具体的な助言や対応方法を交えながら、双方向のやり取りを重視した内容となり、参加者同士が悩みや経験を共有することで、ひとりで抱え込まなくてよいと感じられたことや、子育てに向き合っている自身を肯定的に考え直すきっかけになったと評価がありました。この企画が保護者の心理的な負担や、前向きな子育て意識の醸成につなげることができたのではと考えてございます。私からは以上となります。

**石井平出博物館主査** それでは、資料1ページに戻っていただきまして、平出博物館についてまとめて御報告いたします。まず1ページ下段ですけれども、1月17日土曜日、第3回土曜サロンで、テーマは「縄文時代の漆工芸技術」です。会場は平出博物館の学習室となっております。今年度のテーマを「縄文人と自然物の資源化」といたしまして、今回は弘前大学の上條信彦教授から講演をいただいております。内容は、上條教授が携わった青森県東部の現場による実際の発掘事例などを引いていただきまして、当時の出土の瞬間の状況、まさにその瞬間に立ち会わなければ分からないような話を御紹介いただいたところでもあります。そうした事例の御紹介の中からは、日本の漆工芸技術の非常に高度な部分ということで御紹介をいただきまして、聞いていただいた皆さんからも非常に驚きの声が出たものであります。参加者人数は60人となっております。

続きまして、資料は飛んで4ページの上段です。1月31日土曜日ですけれども、行事と

しましては、平出遺跡公園ライトアップナイトミュージアム「遺跡を彩る光の旅」ということであります。会場は平出遺跡公園になっていまして、公園内の縄文の村と古墳時代の村のエリアに、市内の保育園児、それから幼稚園児の皆さんに描いていただいた絵を灯ろうに入れて設置をしていただきまして、併せて復元住居等のライトアップも行わせていただきまして、非日常的な空間の演出をさせていただいております。成果につきましては、今年が5回目の開催となりまして、比較的定着してきていただいて、また日中とは違う景色を、また冬の屋外ということで、そういった非日常のところを遺跡公園で触れ合うことも含めて、いろいろと味わっていただくことができたものと考えております。参加者人数は1,800人ということで承知をしております。私からは以上でございます。

**古畑文化財課長** 同じく4ページをお願いいたします。私からは、下段の2月1日に開催しました第31回短歌の里百人一首大会の報告をいたします。会場につきましては、原新田公民館で行いました。当初、ちらし取りの部と競技かるたの部、この2つの部について募集をしましたがけれども、ちらし取りの部は応募がなく、原新田公民館で行う競技かるたの部のみとなりました。参加者につきましては、それぞれ経験者では、取得している級や実力に応じて、初級、中級、上級に分かれて競技かるたの大会を行いました。成果、その他のところに記載のとおりでございますけれども、参加者60人のうち、今年度、文化財課の職員が講師を務めたかるた教室の参加者14人のうち11人がこちらの大会に出場し、そのうち1人が優秀賞、第2位を取るということもありまして、底辺の拡大につながったということを確認しております。私からは以上です。

**佐倉教育長** 委員の皆さんから御質問、御意見ありましたらお願いいたします。

**碓井教育長職務代理者** それではお願いします。4ページの1月31日の平出遺跡公園ライトアップナイトミュージアムについてです。当日、私、暗くなりかけた6時頃見にいきました。資料の成果のところ記述されているように、また今、お話にもあったのですけれども、園内の道が、保育園児や幼稚園児の皆さんによって描かれた絵が灯ろうに浮き上がっていて、とてもきれいで、幻想的になっていました。本当に寒い日でしたけれども、園内には小さなお子さんを連れた御家族の姿が多く見られたかなと思います。

見学している最中に、どこからか「あった」という声も聞こえてきましたので、お子さんが描いた絵を御家族の方が見つけたのではないかと思います。灯ろうには通常の絵のほか、切り絵があったり、ちぎり絵のようなものもあったりしましたので、今まで以上に工夫が見られていてよかったというふうに思いますが、園の先生方はなかなか大変だったのではないかなと思いました。

また、遺跡公園の四季を映し出したプロジェクションマッピングというのですか、それもあって、大寒の時期の本当に寒い中でしたけれども、これはいいイベントかなと、そんなことを思いました。

それから、2つ目は、5ページの2月1日の、みんなで学べる、つながる！子育ておしゃべり子育て時間「えんたいむ」について。これは幾つか質問をお願いしたいと思います。この取組は初めての実施なのでしょうか。小学校1年生から3年生までのお子さんがある保護者を対象にしたということですが、なぜ1年から3年にしたのか。それから、参加者が少なかったような感じですが、どういう募集の仕方をされたのか。今後の方向といえますか、年代や学年等を広げるお考えはあるのかどうか。そんな点等についてお聞きした

いなと思います。

**矢澤市民交流センター長（図書館長）** ありがとうございます。このイベントは、今年度初めて開催したものになります。計画段階では、もう少し対象年齢を大きくしてやろうかという話もありました。先ほどの説明の中でも少し話をさせていただきましたが、皆さんそれぞれ課題というか、自分の中での心配事というのがかなり違ってきてしまうだろうというところもありまして、区切って、低学年のお子さんたちにまずは焦点を当ててやってみることにしました。参加されたお母さんたちのお話を聞きながら、次回、これから先のことも含めて、どのような形で広げていくのか、それとも、この幅を変えていって何回か講座をやっていくのかということも含めて、これから検討を進めていきたいと思っております。

ただ、参加人数は少なかったですが、実際に来ていただいた方たちには、自分たちが自分ごとでお話ができ、皆さんそれぞれ課題が似ているところもあったものですから、その後、連絡先の交換もできました。また、先生のお話も聞くことができ、自分の安心感が増しているということもお聞きできたので。ただ、1回の事業の中で人数が少ないというのは、少し考えていかなければいけない部分ではありますので、これから人数をどうやって増やしていくのか。広報については、基本的にはきちんとSNS等や、広報塩尻でもPRをさせていただいたのですが、やはり対象となる人数がそこまで多くないというところもありますので、これから先どのような形でこの事業を大きくしていくかということは検討していきたいと考えております。

**碓井教育長職務代理者** このような取組について、私は、ほかの保護者と情報交換したり、子育ての情報を保護者の方が求めたりしている、そういう場合が結構多いのではないかと思いますので、一層の充実を図っていただくことがいいのではないかと思います。以上です。

**佐倉教育長** そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。ありがとうございました。それでは、次に進みます。

### ○報告第2号 3月の行事予定等について

**佐倉教育長** 報告第2号、3月の行事予定についてお願いいたします。資料は6ページです。全員に関わるものとして、17日に小学校卒業式、18日に中学校卒業式、19日定例教育委員会、31日に退職校長辞令交付式がありますので、皆様の御出席をお願いいたします。また、7日にみんなのがん教室、20日にしおじりこども・若者意見ひろば、28日に手話で楽しむおはなし会が開催されますので、御都合のつくところがありましたら御参加いただければと思います。

予定について、御質問等ありましたらお願いいたします。よろしいですか。

それでは、次に進みます。

### ○報告第3号 後援・共催について

**佐倉教育長** 報告第3号、後援・共催についてです。資料の7ページから8ページになります。

見ていただきまして、委員の皆様から御質問、御意見がありましたらお願いいたします。

**碓井教育長職務代理者** 8ページの60番、ママの働き方応援隊赤ちゃん先生クラスという取組について、開催が2月26日、場所が西小学校になっているのですけれども、学校でどんな内容が行われるのか、そんな点を教えていただければと思います。

**上條学校教育課長** 今回、西小学校の2学年2クラスが学習单元として、大きくなった僕・私の導入につなげていきたいということで、当法人に講師を依頼したという経過になっております。テーマとしまして、赤ちゃんと自分を比べて、自分の成長を感じて、親への感謝の気持ちを持ちつ、このような学びを行いたいという形で、西小学校が依頼したという経過になっております。

**碓井教育長職務代理者** ありがとうございます。

**佐倉教育長** そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次に進みたいと思います。

#### ○報告第4号 市議会2月臨時会報告

**佐倉教育長** 報告第4号になります。市議会2月臨時会報告についてですが、資料は9ページから18ページになります。事務局から説明をお願いいたします。

**上村交流文化部次長(社会教育スポーツ課長)** 9ページに臨時会の提出案件がございますが、こちらは社会教育スポーツ課のレザンホールの工事、また指定管理者の指定に係る案件ですので、全て一括して私のほうから説明をさせていただきます。

まず10ページでございます。最初に、塩尻市文化会館の指定管理者の指定でございます。提案理由ですが、文化会館の指定管理者の指定をすることについて、地方自治法第244の2第6項の規定により、議会の議決を求めるものです。

概要については、指定管理者に次の者を指定するものでございます。指定の相手方については、一般財団法人塩尻市文化振興事業団でございます。これまでと同様で、指定管理の期間は令和8年4月1日から令和11年3月31日までの3年間でございます。

続いて議案第2号、11ページでございますが、塩尻市文化会館改修工事、こちらは設計・監理・建築一式請負契約の締結についてでございます。提案理由につきましては、文化会館の改修工事(設計・監理・建築一式)に係る請負契約を締結することについて、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定により、議会の議決を求めるものです。

契約の概要につきましては、方法等につきましては、随意契約、公募型プロポーザルでございます。令和7年12月18日にプレゼンテーション及びヒアリング審査を実施し、参加業者は2つの特定建設工事共同企業体でございます。金額については、26億1,800万円。期限については、令和10年3月28日。相手方は、青木あすなる・ヤマウラ共同企業体で、代表者・構成員は、それぞれ記載のとおりでございます。

工事の概要につきましては、大ホール、中ホール及び1階ロビーの特定天井耐震化工事並びに内装、外装等の大規模改修工事でございます。位置図等については、12ページ、13ページに記載のとおりでございます。

続きまして14ページ、議案第3号、こちらは改修工事(舞台機構設備)請負契約の締結についてでございます。提案理由は第2号と同様でございます。

方法等は、今現在の舞台の担当の事業者でございますが、こちらで随意契約でございます。金額について4億8,400万円、期限は令和10年3月28日、相手方は三精テクノロジー株式会社東京支店。工事の概要につきましては、大ホール、中ホールの舞台機構設備の更新等でございます。平面図については15ページでございます。

続いて 16 ページ、こちらは社会文教常任委員会で審議いただきましたが、質問の内容としては、番号 1 つ目の小口直実委員からでございますが、この中で、工事の請負業者の選定方法は適切であったかという問いがございました。答弁としては、CM業者、コンストラクション・マネジメントで支援いただいている業者と検討を重ね、募集要領等を作成してきており、適切と考えるという答弁をしております。

番号 3 つ目、小野委員からでございますが、CM業務の業者が契約に関わったということかということでございますが、こちらについては、発注者側の立場として契約に関わっているという答弁をしております。

番号の 4 つ目、中村委員でございますが、契約金額は今後の物価に応じて変動する可能性があるかという質問をいただきました。回答としては、社会情勢等を鑑みて影響を受けることは想定される。インフレスライド条項に基づき、県のマニュアルに準拠して金額に反映するものと捉えているという答弁をしております。

次に、17 ページをお願いいたします。レザンホールの工事に係りまして補正予算を提出させていただきました。歳出については 2 つございまして、コンストラクション・マネジメント業務委託料と工事請負費でございます。こちらにつきましては、今年度の工事はしないわけでございますけれども、設計部分に関しまして、有利な起債を利用するために、設計金額を前倒しの補正をさせたことによる増額補正でございます。

また、歳入の部分でございますが、それぞれ 3 つございまして、事業・科目名称のところでございますが、記載の名称が公共施設等適正管理推進事業債、2 つ目が合併特例債事業、3 つ目が緊急防災・減災事業債とございますが、それぞれ公共施設等適正管理推進事業債を減額して、合併特例債、緊急防災・減災事業債をそれぞれ増額するという財源の見直しをしております。

続いて、18 ページでございます。こちらは予算決算常任委員会で審議をいただきましたが、小澤委員より、CM業者の果たしている役割という質問がございました。そちらに関しましては、事業者の選定に当たり、CM業務として、国内大手企業への市場調査や細部にわたる工事発注額の算出等の役割を担ってきており、1 度目の不調後は、さらなる詳細な市場調査を実施し、仕様を見直したことにより再公告に至った。これらはCM業者の支援なしでは実施が困難であったと考えるという答弁をしております。私からは以上でございます。

**佐倉教育長** 臨時会の報告がありました。委員の皆様から御質問、御意見がありましたらお願いいたします。

**上村交流文化部次長（社会教育スポーツ課長）** 別刷りで配付してございますスケジュールをお願いいたします。議会で可決されたことに伴いまして、配付した資料のとおりスケジュールとなりました。大ホール、中ホールが上段にございますが、設計がどちらも 9 か月、10 月末まで行いまして、中ホールにつきまして、早速工事に入りまして、工事期間が 13 か月。大ホールについては、施工準備期間を 2 か月半ほど挟みまして、工事が 11 か月ということになってございます。

二十歳のつどいでございますが、大ホールについては、事業者の提案により、二十歳のつどいがどちらもできるような工程にしております。あと、3 段目以降につきましては、それぞれ舞台の工事をホールの改修と併せて行いますので、このように記載がございます。また別に、エレベーターと緞帳の設備のほう、これら記載のとおりスケジュールとなっております。

ざいますので、お知らせいたします。以上です。

**佐倉教育長** 先ほどの臨時会の報告とこのスケジュールも含めて、御質問、御意見がありましたらお願いいたします。よろしいですか。

ないようでしたら、報告のとおり御承知をいただきたいと思います。

#### 4 その他

##### ○その他第1号 令和7年度教育委員会関係補正予算（案）について<期間限定非公開>

**佐倉教育長** 続きまして、その他第1号及び第2号につきましては、議会提出資料を扱うため、非公開にて行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

**佐倉教育長** 異議なしと認め、非公開とします。傍聴者はいらっしゃらないですね。

**浅川教育企画係長** いらっしゃっておりません。

**佐倉教育長** それでは、傍聴者はいませんので、このまま引き続きお願いします。

その他第1号、令和7年度教育委員会関係補正予算（案）、別刷りのものになりますが、別冊資料の1ページから3ページになります。事務局から説明をお願いします。

**上村交流文化部次長（社会教育スポーツ課長）** それでは、1ページをお願いします。補正予算（第10号）（第11号）、No. 1、総合体育館運営事業の会場使用料につきましては、こちらは例年のこととなりますけれども、総合体育館ユメックスアリーナでございしますが、行政をはじめ、中体連、高体連などが大会やイベント等で使用した分の利用料を、年度末に一括精算により支払うための補正でございします。

No. 2の体育施設整備事業の体育施設改修工事につきましては、国の補正予算を活用することに伴い、市内体育施設照明器具のLED化工事の金額を計上するものです。なお、該当の体育施設につきましては、中央スポーツ公園のテニスコートの北側のほうと弓道場、広丘体育館、屋内ゲートボール場、檜川屋内運動場でございます。私からは以上です。

**上條学校教育課長** 続きまして、No. 3、No. 4の奨学資金貸与事業につきましては、奨学生への奨学資金貸付金について、繰上償還及び滞納繰越分を含む貸付金の返済分を元金積立金として、それぞれ基金に積み立てるものでございます。

続きまして、No. 5の辰野町塩尻市小学校組合負担金につきましては、組合会計の決算見込みによる増額補正でございします。

続きまして、No. 6の塩尻市辰野町中学校組合負担金につきましては、国の補正予算に対応し、両小野中学校の校舎及び体育館の照明設備LED化と特別教室の空調設備設置工事の実施に伴う増額補正でございします。説明は以上でございします。

**五味教育施設課長** 続きまして、No. 7、No. 8の小学校貯水設備改善事業につきましては、老朽化している片丘小学校の貯水槽について、国の補正予算の活用に伴いまして、予算を前倒して、耐震性のあるものに更新するための工事費と工事監理業務委託料になります。

おめくりいただきまして、2ページをお願いいたします。No. 9からNo. 12の小学校照明設備LED化推進事業と中学校照明設備LED化推進事業につきましては、こちらも同じく国の補正予算を活用して、広丘小学校、吉田小学校及び檜川小中学校の照明設備をLED照明に更新するための工事費と工事監理業務委託料になります。

次にN o. 13、N o. 14の中学校長寿命化改良事業につきましては、こちらも国の補正予算を活用して、檜川小中学校の屋根、外壁等の防水塗装改修をするための工事費及び工事監理業務委託料になります。

次に、各事業の財源になりますが、おめくりいただきまして3ページをお願いいたします。N o. 3からN o. 5及びN o. 7の学校施設環境改善交付金及び学校教育施設等整備事業債につきましては、片丘小学校の貯水槽の耐震化工事と、広丘小学校、吉田小学校、檜川小中学校の照明設備LED化工事、檜川小中学校の屋根、外壁等の改修工事に充当します。

次に、N o. 6、N o. 8の脱炭素化推進事業については、広丘小学校と吉田小学校と檜川小中学校の照明設備LED化工事に充当します。私からは以上です。

**上村交流文化部長（社会教育スポーツ課長）** 私と一緒に歳入を説明すればよかったですけれど、歳入のN o. 1、N o. 2でございます。こちら、先ほど歳出で御説明申し上げましたN o. 2の体育施設改修工事のLED化工事に伴いまして、N o. 1ですと交付金、N o. 2の起債をそれぞれ充当するものでございます。私からは以上です。

**塩原保育課長** 2ページをお願いいたします。保育課関係がN o. 15以降で、それぞれ民間保育所等支援事業になります。N o. 15につきましては、補助単価の増額改定などに伴います民間保育所等への給付費の増額となりまして、その財源につきましては、次の3ページ、歳入になりますけれども、N o. 9、N o. 10の国と県からの交付金を充当するものとなります。

2ページにお戻りいただきまして、N o. 16、N o. 17、N o. 18につきましては、前年度以前に概算交付されました国庫補助及び県補助の事業費の確定に伴いまして、国庫等へ返還をするものとなります。私からは以上です。

**佐倉教育長** ありがとうございます。委員の皆様から御質問、御意見がありましたらお願いいたします。よろしいですか。

それでは、説明のとおり御承知おきください。

## ○その他第2号 令和8年度教育委員会関係予算（案）について〈期間限定非公開〉

**佐倉教育長** 続きまして、その他第2号、令和8年度教育委員会関係予算（案）概要ですが、別冊資料の4ページから12ページになります。事務局から説明をお願いします。

**上村交流文化部長（社会教育スポーツ課長）** では、資料5ページ、6ページが社会教育スポーツ課分でございます。主なもののみ説明申し上げます。

5ページ、一番上の欄、全国短歌フォーラム事業でございます。令和8年度につきましては、第40回の節目を迎えることから、レザンホールにおいて記念事業を実施します。具体的には、今後、実行委員会にお諮りして、正式に決定されるものではありませんが、現在の想定としましては、3人の選者をレザンホールに迎えまして、トークショー等を開催する予定をしております。

その下の欄、文化会館改修事業ですけれども、先ほども御説明したとおり、令和8年度は設計及び、その後、大規模改修に着手いたします。

その下の公民館事業でございます。こちらの記載のとおり、生涯学習の推進、地域の関係を深めるために公民館の運営と各種講座、講演会等を行います。こちらには記載してございませんが、近年、地区公民館において、小中学校の長期休暇中の子どもの学習の見守りや軽

食の提供を行う学習広場等の活動が広がりを見せていることから、新たに、長期休暇中の子どもの居場所事業を行う館に対して、食材や消耗品などの経費を補助するため、35万円を計上しております。私からは以上です。

**長島国民スポーツ大会推進室長** 私からは、国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会開催推進事業について説明させていただきます。御存知のとおり、令和10年に長野県で国民スポーツ大会が開催されます。塩尻におきましては、正式競技としてバドミントンと柔剣道の2種目が決まっております。ユメックスアリーナを主会場といたしまして、2種目が繰り広げられるわけですが、来年度につきまして、アリーナの部分は、新しい建物ですので空調も完備されていて、試合運営には問題がありませんが、諸室、会議室が大分足りないということで、その会場設計を業務委託する委託料が主なものとなります。300万円余となります。私からの説明は以上です。

**石井平出博物館主査** 平出博物館の関係でありますけれども、7ページの資料の中段の2つになります。この中で下から2段目の平出遺跡公園事業でございますが、平出遺跡公園内にあります、先ほどライトアップの話も取り上げていただきましたが、古墳時代のエリアの一角にあります大型復元住居の改修工事を予定しております、それが平出遺跡公園事業の特段のものとなっております。私からは以上でございます。

**古畑文化財課長** それでは、文化財課では7ページの一番下の枠になります。重伝建整備事業2,495万円余でございますけれども、こちらは奈良井及び木曾平沢地区における重伝建地区内の修理・修景事業を実施するための間接補助のものになりますけれども、奈良井につきましては、令和8年度は修理3件、木曾平沢は修理2件、修景1件の計6件を予定しております。私からは以上です。

**矢澤市民交流センター長（図書館長）** 私からは8ページ、市民交流センターと図書館について御説明させていただきます。まず、市民交流センターですけれども、利用者の利便性、快適性を確保し、機能を十分発揮できるよう適切な維持管理を、管理諸経費を使いながら行っていきながら、交流企画事業、協働のまちづくり推進事業について、令和8年度についても進めてまいりたいと考えております。

図書館につきましては、子どもの読書活動推進計画に従いまして、子どもが本と出会う機会の創出と読書普及活動を推進してまいりたいという思いと、本の寺子屋推進事業、また、物価高騰によりまして書籍の値段も上昇していく一方でございますけれども、そんな中でも、必要となる資料について収集をしていく図書館サービス基盤整備事業について、しっかりと推進してまいりたいと考えております。私からは以上となります。

**竹中子ども教育部次長（こども未来課長）** それでは、9ページを御覧ください。こども未来課になります。まず、1行目のひとり親家庭福祉推進事業であります。ひとり親家庭への支援をする事業でございます。事業内容は記載のとおりであります。令和8年度はファイナンシャルプランナーによる個別相談会を予定しております。

1つ飛ばしまして3行目、こどもの未来応援事業であります。こどもの貧困対策及び居場所づくりをする事業となります。こちらにつきましては、居場所づくり事業補助金につきまして、来年度は総額200万円余を増額しまして、運営者を支援することで、居場所の拡大を図ってまいりたいと思っております。私からは以上です。

**五味教育施設課長** 続きまして、その下、保育園大規模修繕事業になります。こちらにつま

しては、老朽化している広丘南保育園について、園舎の屋根、外壁等の防水塗装改修、トイレや給食室の改修と照明設備のLED化、乳児保育室への床暖の設置、保育室等の暖房設備をFF暖房に更新するための工事費と工事監理業務委託料になります。私からは以上です。

**上條学校教育課長** 続きまして、10ページを御覧ください。一番上になります。児童館・児童クラブ運営費につきましては、令和8年度の事業としまして、入退館管理システムを導入し、入退館時刻を正確に把握することで、安全管理の強化と保護者の利便性向上を図ってまいります。

次の教育相談支援事業の令和8年度事業につきましては、大門地区の民間フリースクールができますので、そちらと連携した居場所づくりの実証や日本語が話せない外国由来児童生徒への初期集中指導を、民間の学習塾と連携して執行してまいります。

次の教育DX推進事業の令和8年度事業につきましては、教育情報システム更新に併せて、次世代ホームDX環境を整備し、クラウド活用や端末の無線化、多要素認証の導入による、より働き方改革とセキュリティ強化を図ってまいります。

続きまして、次の11ページを御覧ください。一番上になります。学びと学校施設の最適化検討事業につきましては、児童生徒数の減少や人口変化、施設の老朽化を踏まえ、持続可能な学校の在り方を検討するもので、令和8年度は、望ましい学級規模や通学条件などを基に再編、通学区域見直しの基準を策定し、教育環境の質の維持向上を図ってまいります。

続きまして、その下、部活動地域展開推進事業の令和8年度事業につきましては、地域クラブの認証補助制度を創設し、運営事務局を中心に、地域クラブの創出、運営を伴走支援してまいります。

最後に、ICT活用教育推進事業の令和8年度事業につきましては、今年度で小中学校のタブレットを更新しますので、不要となった端末の適正処分と、小学校におきましては大型提示装置、プロジェクターになります。そちらの更新を行います。説明は以上となります。

**塩原保育課長** それでは、12ページをお願いいたします。保育課関係になります。民間保育所等支援事業につきましては、令和8年度、広丘高出で小規模保育所のひかりテラス保育園を運営しております合同会社グラベラによります地域子育て支援拠点事業、具体的には子育て支援センターになりますけれども、こちらが4月から開始される予定となっております。そのほかの民間事業所と共に補助金交付などの支援を行いまして、官民一体となった子育て環境の充実を図ってまいります。

保育所運営費では、こども誰でも通園制度が令和8年度4月から本格実施となりますので、子育て支援センター事業等を含めて、保育園に預けず、家庭で保育する方への支援にも、引き続き取り組んでまいります。私からは以上です。

**佐倉教育長** 予算（案）に関わって、委員の皆さんから御質問、御意見がありましたらお願いいたします。

**碓井教育長職務代理者** こども未来課に関係すると思うのですが、元気っ子応援事業についてなのですが、これはどの事業に入るのか。元気っ子応援事業の名前の表示が出ていないのですが、その辺はどんなふうに考えたらいいか。

**竹中こども教育部次長（こども未来課長）** 申し訳ございません。こちらの予算（案）概要につきましては、市議会にも提出させていただいている資料になりますが、全ての事業について記載するわけではございませんで、主に新規事業ですとか重点施策のものを記載してあり

ます。先ほどの説明の中でも、来年度新規事業が含まれているものが多く記載されていたと思いますけれども、元気っ子応援事業につきましては、来年度、特に大きな変更はございませんので、記載してございません。そういうことで御理解いただきたいと思います。

**碓井教育長職務代理人** 特に重点でもないという理解でよろしいわけでしょうか。

**竹中こども教育部次長（こども未来課長）** 重要な事業ですけれども、来年度は変更点もないため記載していないという状況です。

**碓井教育長職務代理人** 私としては大事な事業だと思います。新規と重要な事業については載せてあるというような御説明でありましたので、載せてほしかったなというふうには思いません。以上です。

**壺委員** 今のことに少し関わるのですが、こども未来課の家庭支援推進事業と学校教育課の教育相談支援事業の2つは、支援事業に関して減額になっていますが、支援は必要な部分だと思うのですが、何で減額になるのか、理由があったら教えてください。

**竹中こども教育部次長（こども未来課長）** 家庭支援推進事業500万余の減額になっておりますが、こちらは、子ども若者サポーター1人分の人件費を、今年度までは、この家庭支援推進事業のほうで計上しておりました。それを来年度、若者サポート事業へ組み替えるため減額となるものです。行う業務自体は一緒なのですが、別事業を移すということで減額になっているのが主な理由でございます。

**上條学校教育課長** 例えば消耗品ですとか、そういったもので減額になっているものがありますが、一番大きい要素としましては、会計年度任用職員の減額という形になっております。

**壺委員** 大門地区に民間のフリースクールと書いてありますが、それと日本語の学習塾が少しずつ増えている中で、減額して大丈夫なのかなと思っているのですが、それについてはどうでしょうか。

**上條学校教育課長** 相談事業につきましては、それぞれ新規事業を適切に計上しております。事業全体では減額になっておりますが、それぞれの個別案件については、予算執行上、問題ない状況でございます。

**壺委員** あと、6ページの体育施設の整備事業で大分減額になっている理由は何でしょうか。

**上村交流文化部次長（社会教育スポーツ課長）** 昨年度の予算につきましては、体育館のLED化工事の設計業務委託と、老朽化診断の調査委託料が含まれていたという特殊事情がございます。こちらは先ほど説明したとおり、本来であれば、この令和8年度で体育施設のLED化工事も行う予定で、それが前倒しになって令和7年度の補正予算になっているので、来年度は81万円ということで、通常の体育施設の修繕費しか盛っていないのですが、実際としては、令和8年度に8,600万円のLED化工事もやるということですので、金額は大きくなってございます。いずれにしても、ここが大きく減少した理由については、前年度予算に特殊事情が含まれていたということでございます。

**壺委員** ありがとうございます。それとは逆に、11ページの部活動地域展開推進事業で倍額になっている予算ですけれども、それはどのような見込みで倍額にしたのかと、進捗状況を教えてもらえればありがたいです。

**上條学校教育課長** 新年度予算につきましては、国から、新規に立ち上がるクラブに対する補助金の基準額が示されました。令和8年度末には、休日のクラブ活動を地域展開していく形で目標を立てております。市内で約20近くのクラブが今後立ち上がる見込みになっており

ますので、そのようなクラブへの支援に対する予算を計上したもの、あと、困窮世帯の子どもへの支援額も国から示されてましたので、そのような予算も新たに加わった状況でございます。

**委員** ありがとうございます。

**佐倉教育長** 続いていかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、説明のとおりになりますが、御承知おきをいただきたいと思います。

それでは、その他の案件については以上となります。非公開を解いて、次に進みます。

それでは、本日予定されておりました案件は以上ですが、そのほか、委員の皆様から何かありましたらお願いいたします。

事務局から何かありましたら。よろしいですか。

## 6 閉会

**佐倉教育長** それでは、以上をもちまして2月定例教育委員会を閉会といたします。ありがとうございました。

○ 午後3時21分に閉会する。

以上

令和8年3月19日

署 名

教 育 長

---

同職務代理者

---

委 員

---

委 員

---

委 員

---

記 録 職 員 学 校 教 育 課  
教 育 企 画 係 長

---